

日本移植学会・日本組織適合性学会 共同作業部会
HLAに関わる選択基準(提言)

(1)現在、腎臓移植の基準等に関する作業班にて「腎臓移植希望者(レシピエント)選択基準について」改正のため審議中であり、腎臓移植配分ルールの見直し作業が行われている。専門領域に携わる日本移植学会、日本組織適合性学会の共同作業部会名にて HLA に関わる選択基準の提言を下記のように行うこととした。

1. 前提条件 (2)リンパ球直接交叉試験(全リンパ球又は Tリンパ球)陰性
(修正案)

高感度のリンパ球交叉試験陰性

(解説)最近は、高感度のリンパ球交叉試験方法が開発されている。とくに Flow cytometryなどを用いる方法が該当する。直接試験とは、もともと交叉試験方法におけるリンパ球に二次抗体を利用しない方法であり、AHG、Flow cytometry は、間接試験と分類される。

3. 具体的選択法 (3) ———また、PRA 検査が可能な場合には、PRA 検査陰性を満たすこととする

(修正案)移植希望者の PRA 検査(HLA 抗体スクリーニング)は、高感度方法を用いて実施することが望ましい。

(解説)PRA 陽性、クロスマッチ陰性は、海外では移植のよい適応となっている。海外では、バーチャルクロスマッチの導入を試みているところもある。候補者の HLA 抗体保有データは、移植レシピエント選択に有用な情報を提供する。

(修正案:下記を追加)

(注5) HLA 検査施設が提供する具体的な検査内容については、関連学会(日本組織適合性学会および日本移植学会)委員会により作成したガイドラインに準拠する。

(2)ドナー発生時における Flow cytometry クロスマッチの緊急対応が可能な施設について話し合った。人員、予算、設備機器不足問題を解決しなければならないが、現在のところ、東北地方では、福島県立医大のみ Flow cytometry が設置されている。東京では、少なくとも 3 施設は必要であると考えられる。

(3)HLA タイピングは、現在、2 桁対応であるが、4 桁は不要である。